

電子写真機變愛

第八夜

機能満載、お値段お手頃、女子向け浸透圧高し、列島M化計画進行中。さらに簡単EOS M10。

させていただきやすつつうくらいのガチンコ中のガチンコ。これ以上はカンベンしてくれ。

シーン1. 某空港にて到着の様を撮影するバックアップに回るEOS M10。撮影感度ISO1600、シャッター速度1/2500秒、絞り開放。チャンスはボーディングブリッジより通路通過の数秒。キャノンの大型一眼レフやプロ機材に紛れてスタンバイ。室内のやや薄暗く、低コントラストの撮影でも位相差AFとコントラストAFを組み合わせるハイブリッドCMOS AF IIの高速フォーカスでバチピン。良き哉。

シーン2. 牧場にて視察の様子を取材時、メインカメラのサブとして健闘。撮影感度ISO800、プログラムオート。手前に放牧された和牛のダークな毛並みと背景のバランスよく再現するクリエイティブアシストにより背景くっきり、コントラスト弱めにただし色合い鮮やかにミッドレンジコンプリート。

シーン3. 滞在ホテル到着の様。撮影感度ISO6400。マニュアル露出、マニュアルフォーカス。日没後の極めて限定された光線下での群衆撮影。脚立&ライブビュー天衝き諸手撮りの不安定コロポ。先進の画像エンジンDIGITAL DUAL CANON IMAGE AREA 1.0によるノイズレスでシャープな高感度画質と手ブレ補正効果3.5段の新標準ズームEF-M15-45mm F3.5-6.3 IS STMと我撮影に成功セリ。

シーン4. 取材の成功を祝い、酒場にて撮影チームと乾杯。地鶏が旨い。180度回転するタッチモニターで自撮り成功。大団円。

このように群雄割拠報道混雑難立乱立の過酷な現場において第一線で撮影の任務を全うしてきたEOS

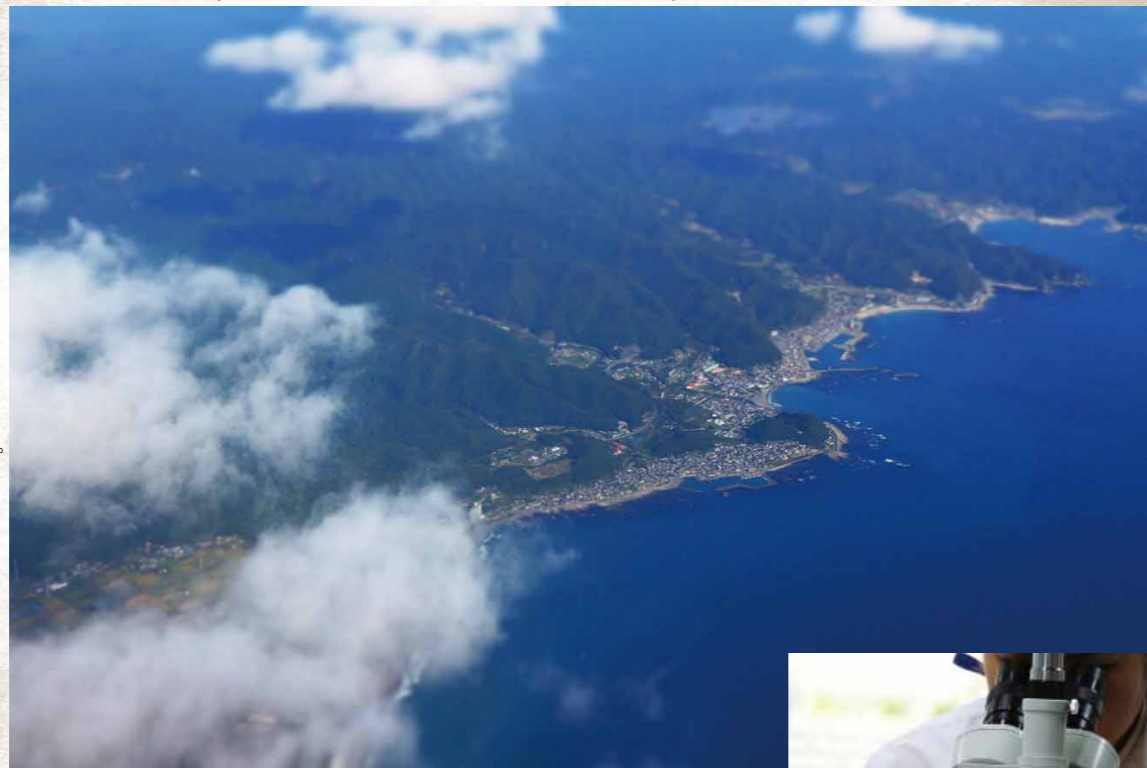
こ ん な 写 真 に 變 を す る



標準ズーム
EF-M15-45mm
F3.5-6.3 IS STM

より小型に、もっと軽量に、さらにワイドに新標準ズームは魅力満点の出来上がり。充分小さく軽量であったこれまでのレンズよりぐっと短く、80gほど軽量で、ひと回り広く撮影できるのでございます。この小型化により、APS-Cサイズの広い面積のCMOSセンサー搭載機だということをお忘れのほどのコンパクトなカメラになりました。スマホで馴染んだタッチ操作で、すかさずクリエイティブフィルターにもアクセスできます。写真は「ジオラマ風」使用。

シャッター速度:1/200
絞り:F8
ISO感度:100
焦点距離:40ミリ相当



望遠ズーム
EF-M55-200mm F4.5-6.3 IS STM

ファインダーを覗いて撮影するメリットのひとつに強固な撮影姿勢によりブレを防止するという効果があります。しかしEOS M10の持つ高感度画質の高さと、EF-M55-200mm F4.5-6.3 IS STMのシャッター速度において約3.5段分もの手ブレ補正効果で室内撮影でも35mm判換算320ミリ相当の最大焦点距離、感度ISO1600でブレ知らず。なんならISO3200に感度をあげても全然OK。

シャッター速度:1/125
絞り:F6.3
ISO感度:1600
焦点距離:320ミリ相当



写真と文 織本知之

細部にわたり本気度高しのEOS M10にも180度チルト背面液晶モニターが搭載され、自分撮りが可能に。なんとこのカメラが従来持っていたまま、すぐで融通の利かない精緻精密さを覆し、こんな簡単に写真が撮れるようになったら素晴らしいものだろうか？という自問は……使用後、一瞬で氷解欲しいEOS M10。



この操作力



確かに昔は「タッチパネル？ わげわからん、ボタンにせいや」と思っていました。遠い昔の話です。ここ最近では、一番親しんでるデジタルガジェットがタッチ操作なもので、ボタンよりタッチのほうがスムーズなんでございます。各種操作にオートフォーカスポイント、シャッター操作とタッチの精度と感度も素晴らしく、そして快適。

貴方好みにどうぞ



EOS M10のボディカラーはホワイト、グレー、ブラックの三色から選べます。丸みを帯びたラインでありながら安定感とどこかアンティーク感が混在する優しい雲田気のボディデザイン。その点を引き立てるように7パターンもボディカラーとなるフェイスジャケットも展開中。「いや、そこまでは僕としては……」とはにかむ紳士におくりたい専用「グリップGR-E3」。グリップなのに首から下げたときに最大の威力を発揮するという格好良さ。オススメ。

EOS M10 ズームレンズキット



有効約1800万画素CMOSセンサー
フルHD動画
チルト3型約104万ドットタッチパネル式背面液晶
幅108×高さ66.6×厚み35mm
約265g(いずれも本体のみ)



カラフルな「フェイスジャケット」は価格3780円から。

M10、可愛いだけじゃないんです。ハイブリッドCMOS AF IIに対応した約1800万画素のAPSCサイズのCMOSセンサー、オートライティングオフティマイザによる画像の自動補正。直感的なクリエイティブアシストによる細やかな仕上がり、追い込み調整と7種のクリエイティブフィルターでの遊び心。そして約4.6コマ秒の撮影速度で約1000枚まで連続撮影可能。撮影感度ISO12800までを常用としたパワフルな画像エンジンDIGIC6のもたらす盤石の撮影基本性能。そして、面倒そうだけどやってみるとこれが便利なんだ的なオモシロ機能Wi-Fi接続とCamera Connectアプリによる周辺機器との連携。スマホやタブレットへの転送は当然として、リモート撮影のコントロール。やるかどっかは別としてカメラ同士のデータ交換。便利そうなのはWi-Fi対応プリンターからの直接印刷。できるけども行うときは慎重に、カメラ本体からのSNSへの直接アップとできそうなことは全て詰め込みましたという機能の充実ぶり。これでボディサイズは幅約108mm、高さ66mm、厚みは35mm、質量は本体のみで265gとミラーレス機らしい軽量コンパクト設計。そしてこの度、標準レンズも一新しました。先に登場しましたM専用マウントのEF-M15-45mm F3.5-6.3 IS STMは35mm判換算24mmの超広角から72mmの中望遠域までをカバーするコンパクトながらシャープなズームレンズ。望遠域のEF-M55-200mm F4.5-6.3 IS STMとつづいてまた軽量コンパクトな望遠ズームでラインナップに死角無し。

長らく、レンズ交換式一眼レフカメラといえはクイックリターンミラーを備えた構造のカメラが主流でありました。ところが近年、そのミラーを持たないミラーレス構造のレンズ交換式カメラがカメラ市場を席巻しつつあります。あたりを見回せばときにミラーレスカメラのほうが大勢を占め、従来の一眼レフシステムのほうが少ないということもござります。

デジタル一眼といえばキャノン、キヤノンといえはデジタル一眼なのは皆様もご存知と思いますが、そのキヤノンがデジタル一眼のEOSシリーズにミラーレスモデルを投入し、このEOS Mモデルを投入し、このEOS Mも数えて4代目のM10が登場いたしました。このEOS M10も主にコンデジ、スマホからのステップアップ女子や、新たにデジタル一眼にエントリーするデジタル一眼女子をターゲットに市場に投入された一台であります。じつはこのミラーレスEOSのもつポテンシャルは中々のモノがござります。女子だけではなく男子もぜひエンジンヨイミラーレスしていただきたい。臆することなく軽やかに、しかし、そこはかとなく剛毅にて朴訥、仁に近く使っていたきたい。そつ念じておる次第でございます。

そこで、今回わたくしはこのEOS M10を携えてガチンコ取材合戦に持ち出してみました。どれぐらいガチンコかという2日にわたる取材でぐっつ金属探知機延べ5回、脚立の乗り降り数知れず。レレレクルーにスチールカメラマンその数ざっと30名以上、取材する対象は日本国民で知らないヒトはまずいないという超VIP。これ詳しく説明するのは厳に戒め